

クルアーンはどこから 来たのか？

クルアーンを読んだり勉強したりしたことがなく、イスラームの使徒ムハンマド様の伝記、物語について知らない人なら、真っ先に頭に浮かぶ当然の疑問です。多くの人にとっては周知のことですが、多数の作家たち思想家たちは、他の人たちの業績を盗用し自分たちの成果であるかのように装うことがありました。では、なぜムハンマド様はこの啓典を彼による創作としなかったのでしょうか！ある人は言うかもしれません。それをアッラーに関連付けることで人々を欺くことを企んだのだと。そうであれば、その書のなかの多くの箇所、話し手がムハンマド様を直接叱責、指示し、誤りを訂正しているのはどういうことでしょうか？

クルアーンを読んだことがある人には分かりますが、クルアーンは私的、公的事柄の例外なく彼を叱責します。ムハンマド様を、彼の家庭問題においても忠告したように、司令官としての決定のいくつかの誤り、人々への伝教のやり方についてまでも誤りを指摘するのです。たとえば、預言者と盲目の人物のストーリーを参照してみてください。(眉をひそめるもの章、1-11節) 自分自身の栄誉や地位を高めることを望む人物が、このような形で自らの誤りを歴史に記録し広めるのでしょうか。

ムスリムたちの神聖な啓典クルアーンについて語る際、頭に浮かぶ至極当然の質問があります。この物語に関するムスリムの伝承を我々が受容しなくてはいけないのはなぜか？ムスリムでない人も、この事に関して質問を投げかける権利があるのではないかと。

クルアーンが、西暦600年頃マッカで誕生した、アブドゥラーの息子ムハンマド様という、アラビア語を母語とする読み書きのできないアラブ人によって伝えられたことに歴史家たちは相違していません。クルアーンの中には、クルアーンがアッラーの許から到来し、ムハンマド様の役目は人々に内容を増やすことも減らすこともせず伝えることである、という表現がたくさんあります。さて、これは真実なのでしょうか？

イスラームの使徒ムハンマド様が自分自身で創作した可能性はあるのでしょうか？

